

んで、しかも、ほかにいろいろ仕事を抱えた中で、日曜日をつぶして一生懸命やって、たかだかこれだけなんです。これは行政として非常にロスだと思っただけで、そのためにこそ、体制づくりがどうしても大事だと思います。

80年代への提言

質量ともに日本に近い状態です。スコットランドではボランテニアが重要な役割をはたしていますが、日本の現状の中でも、ボランテニア的な活動がないと進まないだろうと思います。十分な予算があればできるといっても、

都市に緑を

土地制度の抜本的な是正を

田村 明

都市生活の中にも緑が必要なことは今さらいうまでもないだろう。都市は鉄やコンクリートや石などを集中的に使って、人間のための便利な環境を人工的に作ってゆく。かつての日本の都市は素材として木を多く使ったが、今や日本として例外ではなくなった。

このように無機物を多く用いている都市も、その中味は、感性もあり、情念もあり、最も複雑な生物である人間とその生活を対象としている。人間は、無機物だけにとり囲まれていては生物として生活してゆくことができない。都市が無機物でできていなければならないほど、またその規模が大きくなり、密度が高くなればなるほど、それを柔げる緑が欠かすことはできなくなってくるのである。

ところが日本の都市の実態は、山林や近郊農業をくいつぶしながら成長してきた。かつて首都圏整備計画の中で、グリーンベルトという構想が大ロンドン計画を模してたてられたことがあつ

がたいんです。そういうことは今の行政の中で無理じゃないと思います。掘り決して無理ではないと思います。で、どんどん売り込んでいかれてはいかがでしょうか。

池ノ上先生がおっしゃったように、

これに対して我国は、緑にめぐまれすぎてきた。現に我国の国土には七〇%の森林が維持されている。地形が急傾斜が多いことや、産業革命期がおくれ、燃料としての乱伐がなかったためである。

また、日本の都市は昔から城壁もなく、自然と同居したような形でつくられてきてその恩恵を満喫してきた。それだけにそのありがたみを感じず、人為的に意思的に緑を守り育てるよりもなんとなくその恩恵の中に浴してきたのである。したがって大都市という異常に人為的な力の強いところでは、緑を維持、創造する力はどういう対抗できなかつた。

それではどうしたら都市に緑を保全し回復することができるだろうか。

現在都市の緑が破壊しつつあるのは、緑が緑としての価値を認識されることなく、それはただ売却すればおどろくべき価格を生みだすただの経済対象でしかないためである。山林や緑がただちに高価な価格で売却されるのはこれを保全するのは容易なことではない。ところが、そのような高価な価格になるような場所でこそ緑の保全は必要なのである。この矛盾をどうして解決かが最も重要な課題である。

それは一口でいえば基本的な土地政策であり、都市開発のために一定の緑の面積は開発費用として当然に、その

防除や知床の自然教室などボランテニアの若者が大勢参加してくれています。国立公園の自然観察指導員などボランテニアの人たちが活躍できるような形を少しでも考えていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

中に含まれるべきものである。また土地によって得られた売却利益は、その地域に還元されて、緑の保全や環境の向上の費用に用いられるべきものである。

土地を個人の個別の利益のままに、投機的な対象にされ、その環境を破壊することに利益を与えてゆくようなシステムを根本から改めることがどうしても必要である。そのための土地利用政策、土地税制、土地取引制度等の抜本的な是正が必要である。

緑の問題はとかく観念や情念の世界にとどまりやすいが、緑をこわすことで利益をうる者が現に大勢いる。それに対抗しうる現実の制度の中で、緑が確保されるようにすることがどうしても必要なのである。

その外、急にそこまでゆかないにしても、横浜市がとった「都市農業政策」「市民の森政策」はそう予算を用いなくて、都市に緑をつくりだし保全しようという考えであって、もつと普遍化されてよい。それに、国の税制や、その他の政策もこれと矛盾しているが、よりバックアップできるように改正してゆくことが必要である。

そして、細かいことながら、小さな空地や、街路や、町にたのしい緑をつくりだす努力が続けられなければならない。

(たむら あきら・横浜市技監)